

#### 【4-10 SR レポートのまとめ】

CQ6 担癌状態の乳癌患者に対し、調整卵巣刺激を行って採卵することは推奨されるか？

1個のコホート研究と1個のケースコントロール研究から、

- ・乳癌無病生存期間(DFI)
- ・乳癌生存期間(OS)
- ・妊娠率
- ・生児獲得率
- ・エストロゲン値の上昇
- ・費用
- ・癌治療開始までの期間、の7つのアウトカムについて検討した。
  - ・ 益: 採卵により妊孕性が保持される。採卵をしてもがん治療開始までの期間は延長せず、乳癌の予後も悪化しない。少ないが、凍結受精卵の移植による妊娠・出産の報告がある。
  - ・ 害: 採卵によるエストロゲン値の上昇は抑制されており害はないと考えられるが、費用については評価できる研究がなく不明である。